

お米とぎ

小西優美

今日、お米とぎをした。最初にお米をうちがまに入れた。そして、お湯と水を入れて、かき混ぜた。ぬるま湯をすてて、お米を混ぜた。何回かやったことがあるので、やり方は知っていた。ぬるま湯をすててかき混ぜるのは一回だけで、二回目から、ぬるま湯をすててまたぬるま湯を入れるのを何度かくり返す。ぬるま湯を入れてお米が見えたら、目もりにあわせてうちがまをふいて、すいはん器に入れる。水が少し足りなかったので、コップで少し足した。コンセントを差しこんで、予約をする。そしたら終わり。とてもかん単だ。また、お米とぎをしよう。



さあ、きみたちのチカラの見せ場だ!!

今週の金曜日は、社会見学だ。1年生から5年生の「つげの子」グループで行動する。リーダーは、きみたちだ。小さい子たちが楽しい1日を過ごせるように、準備し、行動しよう。きみたちのチカラがためされる最初の場面だ。

6年生は修学旅行の代休で、来週の月曜日は5年生が通学班長であり、掃除の班長であり、1年生の給食当番でもある。全校朝会の「みんなの体操」で前に立つのも、当然5年生だ。最上級生としてのチカラがためされ続ける1日だ。

さあ、きみたちのチカラの見せ場だ。心の準備は整っただろうか。

5月19日、バケツの田植えをしました





■小学校5年・学年つうしん

蒲公英

2003. 6. 9 (月)

No. 18



「日記を書こう」シリーズ④

まずは、スポーツテストの話題を二つ。

五月三十日 スポーツテスト

親木翔平

今日、スポーツテストがあった。はじめは、五十メートル走だった。ぼくの記録は、十秒ピッタリだった。ソフトボール投げは、はばがせまくて投げにくかった。練習のときより、うまくいかなかった。

五月三十日 スポーツテスト

竹下健太

今日、学校でスポーツテストがあった。ぼくは、しんじられないことが一つありました。それは、あく力テストでした。きろくは右二十二、左二十四でした。ぼくは右手のほうが力があると思ったのに、すごかったです。



次は、歯医者さんの話題です。今年は歯医者へ行かないといけない人がとても多かったです。早めに治療を。

五月三十一日 きょうふの歯医者

前川真澄

今日は歯医者だ。五年れん続で行く。お母さんの仕事場(実家)から近いので、いっしょについていった。とても暑くてダラダラあせが出た。そしておじいちゃんに歯医者につれていってもらった。わたしは車の中で、歯ぐきに注しやされるのかとても心配だった。なぜなら、わたしは歯ぐきにいじようがある学校でもらった紙に書いてあったし、妹が歯ぐきに注しやされたからだ。そんなことを考えているうちに、とうとう歯医者に着いてしまった。すぐに治りようが始まった。上の歯をけずられた。おばあちゃんはいたくないと言っていたが、とてもいたくて、「いたいやんか。」と言いたかったが、しゃべったらよけいいたくなるよいうな感じで言えなかった。虫歯はつらい。



都祁小学校
が 105 歳の誕
生日を迎えた
日、大西さん
は 11 歳にな
りました。誕
生日とお葬式
が重なってし
まい、いつも
の年のように
は喜べない一

六月一日 たん生日

大西佑季

今日、私のたん生日
でした。妹のたん生日
と近くて、妹のたん生
日が来るともう少して
たん生日だと思い、毎
年ワクワクしていまし
た。けど今年は、たん
生日がひおばあちゃん
のそう式とかさなってしまいまし
た。私は、おじいちゃんに言う
とおじいちゃんは、自分が生まれ
た日はそう式だったと話してくれ
ました。生まれかわりだと言われ
たそうです。

おたんじょう日
おめでとう

日になりました。命のリレーということを考えさせられました。

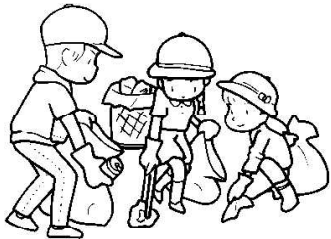
最後は、北出くんの日記です。

信号の近く
の草むらを見
ると、空きか
んやペットボ
トルが一杯捨
てられています。車で走っ
ていると、前
の車から火の
ついたたばこ
が投げ捨てら

六月一日 ポイすて

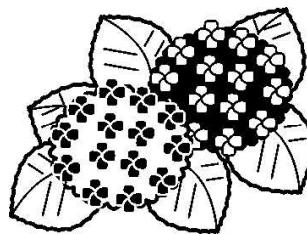
北出俊樹

今日、ねねちゃんと妹とおぼあ
ちゃんどぼくで、買い物に行きま
した。車が信号でとまって、まど
の外を見たら、カンやビンやペッ
トボトルが落ちていたので、ぼく
が、「なんでポイすてるの。」と
聞くと、ねねちゃんが、「信号でと
まるから、ほかす
のちやうか。」と
言いました。すて
ている人はどんな
気持ちですててい
るのかな？ぼくは
知りたい。



れてくることもあります。そういう大人たちに、北出くんは問いかけています。「すてている人はどんな気持ちですてているのかな？ぼくは知りたい。」と。北出くんの強い正義感を感じます。

北出くんの日記は、しっかりと社会のことを見ているからこそ書けたのです。自分のしたことだけではなく、社会のことやクラスのことをしっかりと見つめた日記がふえていくといいなあと思います。





■小学校5年・学年つうしん

蒲公英

2003. 6. 10 (火)

No. 19



「日記を書こう」シリーズ⑤

六月六日 キャンプのはんわけ

川端英樹

五・六時間目に七月に行くキャンプのはんわけをしました。……ぼくは、スタ
ンツがかりに入りました。スタンツが
かりは、みんなの前でなにをするかを考
えるかきりで、初めてなので不安でした。
次にきめるのは、ねるときのはんです。
ぼくは、へやいがいのそうじにしました。
へやいがいのそうじはなれてい
るからだいじょうぶです。さい
ごに、ごはんを作るはんです。
ぼくは、おかずのはんです。は
やく、そこにへ行きたいです。



六月六日 せん風機

大西匠

今日、勉強の時に初めてせん風機を動
かしました。ぼくは、一番おそい回転が
とても気に入りました。
とても暑いのでとっても
幸せな気分でした。すず
しいでした。



六月八日 キヤラバン

上田美沙

今日、キヤラバンがあった。車
で、はやまのこうみんかんまでお
くってもらって、そこからやがい
活動センターまで歩いて行った。
坂道をいくつか登ったので、つい
た時は少しつかれた。と中で雨が
ふってきたので、テントはりはち
ゆうしになってしまった。夕ごは
んは、カレーを作って食べた。す
いはんきもガスコンロもないので、
木をもやしてたいた。夜は、キャ
ンプファイヤーを中でした。やさ
しいおねえさんが四人来てくれて、
みんなでいろんなゲームをした。
ねる時は、ねぶくろでねた。次の
日の朝ごはんは、おにぎりだった。
それから、中央広場という所でフ
リスビーをして遊んでから、また
歩いてはやまのこう
みんかんまで行っ
た。友だちがいっぱ
いできたし、つかれ
た。



『五年四組のイカダ』本日最終回!!

六月三日

最初は、先生がいきなりぶあつい本をもつてきて、なんの本読むのかなと思っていた。先生は『五年四組のイカダ』の本を読んだ。その時私は、とてもいい本だなと感じた。とくにいじわるされるないうや、ぜんそくでなやんでいないないうや、うさぎのノンが死ぬないうや、ほかにもいろいろないやにむねがドキッとしたり、ズキッとなり、かわいそうというところがいっぱいあった。まだほんぶんしか読んでないけど、だんだんもつとさきのないようもみえてくるような気がした。

岡本瞳



六月三日

私は、『五年四組のイカダ』で「やさしい」ということは、どういう意味か。「やさしい」という言葉はよくつかうけどその意味をふかく考えたことはなかった。意味を調べたいと思った。

山本浩美



六月三日

草尾先生がいつも読んでくれる『五年四組のイカダ』という本は、ぼくはとてもちとすきだ。今日の話は、からさわけんいところから始まりました。運動会に一回しか出ていないときいて、ぼくは、「かわいそうだなあ。」と思いました。ぼくは四回運動会に出ているけど、からさわけんは一回しか出たことがないと思うと、とてもかわいそうだと思った。

竹下健太



六月三日 親切

「親切は親を切るよりいたいことなんですか。」とけんいちが言った。私は、親切の意味を深く考えたことがなかった。だから、けんいちが言ったことは意味がよく分からなかった。考えても考えても、意味はやっぱり分からなかった。あけべ先生もよく分からないうことだ。親切とは、どういうことなのだろう。

小西優美



朝の連続小説『五年四組のイカダ』は、好評のうちに本日最終回を迎えました。長らくのおつきあい、ありがとう。この本を聞きながら、みなさんが何を考えたのかももう一度聞かせてください。





■小学校5年・学年つうしん

蒲公英

2003. 6. 24 (火)

No. 23



「日記を書こう」シリーズ⑥

草はこび

川端英樹

今日、夕がた六時ごろから草はこびをてつだいました。お父さんが一輪車にかつた草を入れたので、一か所にまとめるから、ぼくが一輪車をはこんであつめました。それを何回かくりかえすと、草でいっぱいになりました。いっぱいになった草にのると、ふわふわでした。

コロツケ作り

親木翔平

今日、自分でコロツケを作ってみました。最初にじゃがいもとぶた肉をまぜて、その次にめりけん粉をまぶしてたまごとパン粉をまぶして、あげた。すごくかん単だった。次は、みんなの分を作ってみよう。

ベツカムファイバー

幸田正則

ベツカムが来日した。ビクトリア夫人も来日した。今日は、MEIJIの会見をして、次に小学校に行った。こつちにも来てほしい。次は、フジテレビに行った。すごい人だった。ビクトリア夫人は、店の開店祝いのパーティーに行った。そこもすごい人だった。

みんなでボウリング

村田里美

日曜日に弘樹にいとちやんと、太一にいとちやんと美加ねえちやんと、お母さんと私で、サングのボウリングに行った。弘樹にいとちやんと、太一にいとちやんと、美加ねえちやんと、自分、お母さんという順番にいった。私は、初めの時にストライクを出した。みんながんばったけど、最後にはお母さんが一一八点だった。私は九四だった。とてもおもしろかったけど、負けたのがくやしかった。

サマーキャンプ

阪上友貴

私は、早くサマーキャンプに行きたい。わけは、キャンプがアイヤーやきもだめしがあるから、早く行きたい。すこしきんちようするけど、楽しそうだしきもだめしは、私と林やすかちやんと二人で行くことになった。やすかちやんが、「私おもしろいって走るで。」と言った。私は、「おいていかんといてな。」と言った。frisbeeゴルフというのもやってみたい。私はスタンプ係なので、がんばりたい。私たちのグループは、ぼつゲームがおもしろくなるかなとよそうしている。まだなにをするかは言えないけど、楽しんでもらいたい。

小物作り

今谷沙希

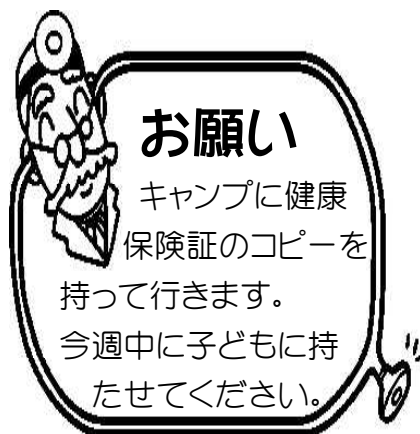
今日は、家庭科の時間に小物作りをした。私は、ウォールポケットを作っている。もうすぐ完成する。友貴ちゃんといっしょに作っている。布は友貴ちゃんにもらった。くふうしているところは、ポケットの形をハートの形にしたところだ。ぬい終わったときの玉止めは、最初できなかった。でも家でお母さんに教えてもらったらできるようになった。ポケットの周りに付けるかざりを切った。まるいのやハートやさくらんぼの形に切った。来週にはできそうだし、できあがりを楽しみたい。

週末の日記を7つ紹介しました。

手品を見た

藤原佳子

今日は、いこいの村のフリーマーケットでした。それで手品を見ました。おじさんとおばさんがやっていた。そんなにびっくりする手品はないけど、おもしろいことが一つだけあります。なにかというと、よこにいたら、手品のしかけがバレバレなのです。でも、見てると不思議に思うこともあります。





■小学校5年・学年つうしん

蒲公英

2003. 6. 25 (水)

No. 24



「日記を書こう」シリーズ⑦

ホタル

お母さんと夜、外に出たら、ホタルが家の近くで飛んでいた。お母さんが、「あつ、ホタル飛んでる。」と言った。私は、「あつ、ほんまや。」と言った。二ひきほど飛んでいた。でもすぐ森へ消えていってしまった。私は、もうちょっと見ていたかったなあと思った。今年初めてホタルを見た。

小西優美



きもだめしグッズ

昨日、トイザラスへきもだめしグッズを買いに行った。こわいおもちゃを買った。もうひとつは家で作った。でもどんなものかは書かないぞ。なぜかと言うと、たんぽぽにのせられるとこまるからだ。

大西匠



ホタルの明かりっていいですね。人生のはかなさと、精一杯の生命を感じます。ちょっと難しいかな。

楽しみなサマーキャンプ

橋本小百合

私は、サマーキャンプがとても楽しみです。みんなで生活するのは初めてなので、楽しみです。はんでご飯を作るのも楽しみです。きもだめしは、すつごくにがたなのでちよつといやです。私は、早くサマーキャンプに行きたいなあと思っていました。朝起きるのは六時だけど、ふだん起きているのは六時半です。だからちゃんと起きられるかしんぱいです。いい思い出にしたいです。



お手つだい

大西耕平

きのう、お手つだいをした。なにをしたかというと、きゅうりの種をまきました。最初にあなに土をいれて、そのあとでまきました。そして最後には土であなをうめました。

幼虫

大西耕平

このあいだ、お手つだいをしたついでに、コガネ虫の幼虫を見つけた。それはたぐささんいて、十五ひき以上もいました。そして、その幼虫を入れました。でも、幼虫は土を食べるので、ほっといてもだいじょうぶなのです。



耕平くんは、いろんなことに疑問を持つ、「なんでだろう」精神のかたまりだ。4月の「なんでだろう」という日記と、5月の「ぎ問」という日記を紹介しよう。

なんでだろう

大西耕平

ぼくは、なんでだろうと思うぎもんがたくさんあります。たとえば、どうして星が光るかです。そして、なんで回ると目が回るかです。なかでも一番気になるのは、どうして勝手に心ぞうがうごくかです。でもそれがわからないから、はやくしりたいです。

ぎ問

大西耕平

さつき、ぎ問に思った。なぜ竹は空どうなのか。それはもうとても不思議でした。ほかにもいろいろなき問がある。たとえば、人はなぜ自分とか、そしてなぜきょうりゆうがぜつめつしたかです。



「なぜ」という疑問を持ち続けることが、学問を深める力になる。大事なことだ。

先生のひとりごと 昨日最終回だった朝の連続小説『きみはダックス先生がきらいか』は、どうでしたか。感想を待っています。

(写真は、給食当番中の〇〇くん。本人のリクエストにより掲載。)

記述指導をどうするか

1. 記述指導で何を指導するか

- (1) まずはすべての子どもに展開的過去形の文章が書ける力を
- (2) 「くわしく書く」ということの意味を再度考える
- (3) 指導のノウハウ

2. 日記指導と作文指導

- (1) 日記指導をどうするか(前回の内容を振り返りつつ)
- (2) 「思い出し直し」という仕事

3. 記述指導と作文指導の全体

- (1) 表現意欲喚起の指導
- (2) 取材指導
- (3) 構想指導
- (4) 記述・叙述指導
- (5) 推考指導
- (6) 鑑賞批評の指導

〈MEMO〉

「生活つづり方と文学の会」第2回学習会のレジュメと資料です。

日記指導から一まとまりの作文を書かせる指導過程を感じ取っていただければ幸いです。

紹介します資料は、「父母の労働を綴る」がテーマです。その前段として、1週間集中して父母を観察させています。毎日の繰り返しのなかからわずかな変化を見つけ、それを日記に書いています。そして、日記の場面を「思い出し直し」によって詳しくし、記述指導していきます。

※ 今のご時世、こんな取り組みは困難でしょうね。まあ、参考までにご一読を。

しななければならぬようになったからだろう。
 今の仕事に慣れて、父も母も帰ってくるのが遅くなった。
 私は、ある日、夜中の一時半ごろ、目が覚めてトイレに行った。す
 ると、
 「トン、トン、トン。」
 と、かいたんをあげてくるような音がする。
 「ガチャガチャ。」
 がざざあけてくる。母は、大きな声で、
 「あ、えり。」
 と言った。父は、
 「よ、起きてらんか。」
 と、びっくりしたように言った。と思った。父と母は、
 「おなかがすいた。」
 と言った。とんとすわってしまっただ、もう、目ぼしろんとしていて、
 すわりかたは、もうあかんというような、なまけなりすわりかただ。
 私は、台所に行ってお茶わんとおぼし、それにいれいろうこにあるもの
 をもってきた。すると、父と母は、
 「ありがたう。」
 と言った。同時に、おぼしを持って目をまよろまよろさせながら用意
 をしている。私は、さつと茶わんをとっておぼしを入れ、父と母は、
 「いただきます。」
 と言ってから、いつせいにおぼしでおぼしを食べた。
 「おいしい。」
 と開こうと思っただけど、手にはおぼしをもって、あまらやお茶わ
 んの上でカチャカチャなっている。おぼしをいれいろうこにはやまで
 食べている。おぼし一ぱいなんてあつというまで、よっぽどつかれて
 いるんだなと思っただ、見えていた。すると、
 「おなかがすいた。」
 と言った。おぼしをいれいろうこで食べてしまった。見えていても目がまわ
 りやうだ。
 もう、今の仕事に慣れてから四年たつ、夜もなれてきた。

学校から早く帰って来て、母がけしようにしているのを見ていたら、
 おぼしに茶が入っていた。わたしは、
 「あつ。」
 と思っただ、そして、私は母に、
 「なに、そのくすり。」
 と聞いた。母は、
 「うん、ちまつとしんじいねん。」
 と言った。私は、今までこんなこと、全然知らなかった。ときどき、
 横になつているときがあつたけど、元気でとはかり思っていた。母が
 病院など行くようになったのは、仕事がおんまりきついでだろう。
 朝は六時半に起きて、おぼしの用意をする。そして、八時ごろから十
 時までやる。それから、そうじ、せんたく、おぼしおぼしの用意をすま
 てる。そして、おぼしに入る。おけしようにして、すぐ店に行く。五
 時から夜中、時まで仕事。やる時間は七時間だ。すごく少ないことも
 ないけれど、五時から一時まで立ちっぱなし、これじゃ病気になるの
 もあたりまえかもしれないけど、病気になるってほしくない。私だつて
 母の手伝いを少しでも多くしてあげれば、病気がつてならないかもし
 れない。もっと多くしてあげれば、飽む病気がんかしない。
 私ほどんがことがあるかとさつとよく考えた。まあ、お手伝いはする
 けど、もっと母が助かることになってないかなと考えた。
 今日の日曜日は、お店も休みだし、学校も休みだし、今日がチャン
 スだと思っただ、ほんになつた。外はもう暗い。いそがなくなつたと思っ
 ておぼしにはいりやうからも考えた。とうとうおぼしからあがつた。母
 をまかすと、もうおぼしの中にはいつている。
 「あたりまえやうな。いつも家に帰ってきてやるのは夜中の二時ごろ
 にやるから。」
 わたしもおぼしにはいつて天じようをばらみつけながら考えた。
 しぼらくすると、母はうっせになつて、
 「足でいれちあつ。」
 と言った。そこでわたしはおぼしをいれいた。
 「マッサージしたろ。」

推敲の授業では、次のページにある構想表をもとに、記述を吟味していきました。私が作者に問い、作者が答えます。共通体験ではないので、他の子たちは聞くことが中心になりますが、推敲のスキルを学ぶ内面活動の質がカギです。

お父さん

16.38.14

「ああしんどし。」
という声をした。

お母さんは、ようじに行つて、袋には、私
と妹と、羞しがいなかた。そこへ、お父
さんが、帰つてきた。そして、手足は、おも
ゆ、くりぬこるんだ。そして、手足は、おも
い、きりつはした。

「うーん」

「いいながら、手も足も、ハーンも、は、た、

「はっし。」

と言ひな、た。

今日もまた、午前六時二十分ごろ行く。

トラックに乗る。遠くへ行く。ゴミを、ト
ラックの後ろの方へ、入れる。あつちも、二
・五毛。

大きな大きな、くりすきほどのあひ。そ
こらにあるあひを、はい、そのあひへ、ア
ミを、入れる。また、同じことも、する。行
たり、また、同じことも、くりすき、三回
も、四回も。

すこく遠くへ行くつら、三回四回、午前
八時ごろ行つても、帰りには、午後三時ごろ、
今日は、大阪で働いている、行くのが、六時
二十分ごろでも、八時ごろつく。すこく時間
が、いれる。

帰りも、三時ごろおわり、おふろに入り、
四時ごろ会社まで出る。家につくのは、七時
ごろ。よ、はじおきい時は、九時を回す時
ある。その時は、ようじが、あ、たんだと思

う。

夏になると、うんてんをする。あつて
あつて、あつてももの所が、あかくなり、お
つぱつぱ、でき、かゆくする。うだ、

冬になると、うむくて、うむくて、がまん
が、できなくする。うだ、でも、ばんは、て
やるお父さん。

休みなくする。あ、と、うんてんを、

仕事も、休む日は、日曜日だけ、

夜は、ぐ、すりぬる。

時には、いぬさき、かきながら、

「ゴエーゴエー」

と、

また、あすも行く。いやだううな。

大阪で、働く前は、電気を、働いてきた
そう。だ。

電気を、見たり、テレビを見たり、また、
いろいろ電気のことを、していた。うだ、

だから、私の、親のテレビが、おかしくな
ると、直してくれる。電気が、ももそう。だ。

でも、やれぬ、時もある。

今は、大阪で働いている。

だから、電気が、わかんない時は、電気を

やさんに、よってもらう。

や、は、り、電気を、さか、ちゃん、と、直して
くれた。

お父さんは、電気を、やめて、大阪で

働くことに、な、た。

大阪で、働くのは、電気を、直すより、す
つと

「ふ、っし。」

というぐうい、この仕事だ。

16.38.15

電気を、働いていたら、休めるけど、大
阪で、働いていたら、休めない。

よ、ほしの時は、たら休めるのも、
でも、行、たりきたり、三回も、四
回も、

休みなしで、うんてんばかり、

風食を、すませたらまた、行く。

夏だ、たら、あせを、たらしながら、

冬だ、たら、さむいのに、ぬくいようなか
んじだそう。だ。

またあすも行く。

一日も休まず。

午前六時二十分ごろに、

「ただいば」
とおかし可声、

「お帰り。」

と、松、

「ああしんどが、た。」

あゆみさんは、父親のことを決して書かない子でした。それは、
現業公務員に対する差別がある中で、彼女が身につけた「ルール」
のようでした。
そんな彼女が初めて父親を綴ったのが上記の日記であり、作文で
した。結果として、彼女は父親の労働と正面から向き合うことにな
りました。

